

## 2020年度 最終 京大本番レベル模試 国語(文) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。  
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。  
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。  
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一(文理共通)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照/内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準 配点… 8点**

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

社会全体が新しい時代に合わせた能力を求めるようになってきているのだから、

B

いつまでも知識量の多寡に依存する古い能力観にとらわれず、

C

新しい能力観への転換を、無自覚・無前提に合理的で必然的な趨勢であるとして、

D

その進展を待望する層が一定数存在するから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のは全体不可(0点)

■要素A 社会全体が新しい時代に合わせた能力を求めるようになってきているのだから…2点

- ・新しい能力(社会の変化に対応した能力)への要求があることについての説明がされていないものは、要素A加点数なし
- ・同意例…世の中が近代化するにつれて、それに応じた能力を求めるようになってきているのだから

■要素B いつまでも知識量の多寡に依存する古い能力観にとらわれず…2点

- ・古い能力(知識量の多寡に依存する能力)からの脱却の必要性についての説明がされていないものは、要素B加点数なし

■要素C 新しい能力観への転換を、無自覚・無前提に合理的で必然的な趨勢であるとして…2点

- ・新しい能力への転換が合理的な趨勢であるという説明がされていないものは、要素C加点数なし

■要素D その進展を待望する層が一定数存在するから…2点

- ・「社会的支持」が新しい能力観を期待する層によるものであることとの説明がされていないものは、要素D加点数なし

問二（文理共通）

■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

メリトクラシーは、

B

近代において教育を受ける機会が開放されたことで職業的機会も開かれ、社会的格差は解消されたように  
みえながら、

C

実はそこには階級的バイアスがかかっており、

D

社会的階級や所得状況による格差は依然として解消されていないということを、

E

都合よく隠すための考え方であるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 二行以下のもは全体不可（0点）

■要素A メリトクラシーは…2点

- ・傍線部の主語に触れていないものは、要素A加点なし

■要素B 近代において教育を受ける機会が開放されたことで職業的機会も開かれ、社会的格差は解消されたようにみえながら…2点

- ・メリトクラシーの前提である「機会開放」「格差解消」の説明がされていないものは、要素B加点なし

■要素C 実はそこには階級的バイアスがかかっており…2点

- ・要素Bの状況には階級的バイアスがかかっていることの説明がないものは、要素C加点なし

■要素D 社会的階級や所得状況による格差は依然として解消されていないということ…2点

- ・「社会的階級による所得状況の格差」も可。
- ・要素Bはあいかわらず解消されていないことの説明がされていないものは、要素D加点なし

■要素E 都合よく隠すための考え方であるということ…2点

- ・要素Aの述部が示されていないものは、要素E加点なし
- ・同意例…隠すための都合のよい主張であるということ

### 問三（文系のみ）

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

#### 基準 配点… 10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

- A  
メリトクラシーを巡る議論は、社会の進展にしたがって求められる能力も進化し、
- B  
より開放的な社会になり、能力主義も進展していくとする「進展論」の立場か、
- C  
社会が進展してもメリトクラシーの理念どおりには社会は開放的にはならず、
- D  
実際には能力主義は進展しないとする「幻想論」の立場かの、
- E  
どちらかの画一的なイメージで語られている状況を打破すること。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 二行以下のもは全体不可（0点）

■要素A メリトクラシーを巡る議論は、社会の進展にしたがって求められる能力も進化し…2点

・「進展論」（社会の変化で求められる能力が進化すること）の説明がされていないものは、要素A加点点なし

■要素B より開放的な社会になり、能力主義も進展していくとする「進展論」の立場か…2点

・「進展論」（要素Aの理由によって「進展」すること）の説明がされていないものは、要素B加点点なし

・不可例…新しい能力観に転換することは必然的趨勢だとする立場か（これは要素Aの内容）

■要素C 社会が進展してもメリトクラシーの理念どおりには社会は開放的にはならず…2点

・「幻想論」（社会が開放されていないこと）の説明がされていないものは、要素C加点点なし

■要素D 実際には能力主義は進展しないとする「幻想論」の立場の…2点

・「幻想論」（要素Bに対応させて、「進展」しないこと）ことの説明がされていないものは、要素D加点点なし

■要素E どちらかの画一的なイメージで語られている状況を打破すること…2点

・「ステレオタイプの解体」の言い換えがされていないものは、要素D加点点なし

問四（文系）・問三（理系）

形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準 配点… 8点**

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

世襲的地位継承社会だからといって、

B

そこは閉鎖的で、能力とは無関係の世界であると決めつけることは、

C

表層的な考え方にすぎず、

D

公開競争によって勝ち上がった人だけをメリットを持つ人だとする特定の価値観にとらわれているとさえいえるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のは全体不可（0点）

■要素A 世襲的地位継承社会だからといって…2点

・「世襲的地位継承社会」に対する見方であることが説明されていないものは、要素A加点なし

■要素B そこは閉鎖的で、能力とは無関係の世界であると決めつけることは…2点

・「世襲」であるから「能力に関係しない」ということの説明がないものは、要素B加点なし

■要素C 表層的な考え方にすぎず…2点

・「皮相的見方」の言い換えがされていないものは、要素C加点なし

■要素D 公開競争によって勝ち上がった人だけをメリットを持つ人だとする特定の価値観にとらわれているとさえいえるから…2点

・要素AからCの考え方をすることは「特定の価値観」に縛られていることの説明がないものは、要素C加点なし

問五（文系）・問四（理系）

形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「～から」になっている場合は、要素F不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準 配点… 14点**

模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

メリトクラシー進展論が、能力に対する見方が時代や社会によって変化することを考えず、

B

能力の意味内容や範囲を一面的に捉えたり、

C

その定義をせずに抽象的に捉えたりしている点で問題をもつことと同様、

D

メリトクラシー幻想論も、画一的で理念的な基準を措定するが故に、

E

現実との乖離が生じ、

F

メリトクラシーは実現せず、現実的ではないとする画一的な結論に陥ってしまうという点で問題をもっているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄六行 三行以下のもは全体不可（0点）

■要素A メリトクラシー進展論が、能力に対する見方が時代や社会によって変化することを考えず…3点

・「進展論」の「問題」（変化を念頭に置いていないこと）についての説明をしていないものは、要素A加点点なし

■要素B 能力の意味内容や範囲を一面的に捉えたり…2点

・「進展論」の「問題」（一面的な捉えであること）についての説明をしていないものは、要素B加点点なし

■要素C その定義をせずに抽象的に捉えたりしている点で問題をもつことと同様…2点

・「進展論」の「問題」（抽象的な捉えであること）についての説明をしていないものは、要素C加点点なし

■要素D メリトクラシー幻想論も、画一的で理念的な基準を措定するが故に…3点

・「幻想論」の「問題」（画一的な基準を持つこと）についての説明をしていないものは、要素D加点点なし

■要素E 現実との乖離が生じ…2点

・「幻想論」の「問題」（現実との乖離）についての説明をしていないものは、要素E加点点なし

■要素F メリトクラシーは実現せず、現実的ではないとする画一的な結論に陥ってしまうという点で問題をもっているということ…2点

・「幻想論」の「問題」（画一的結論になること）についての説明をしていないものは、要素E加点点なし

二 現代文 50点

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 天体の存在する世界をあの世とみなすならば、太陽と月と地球が一直線に並ぶ彼岸潮の時期に天上からの力が一年で最強になり、あの世とこの世がまじりあうから。 B C D

■採点方法・各要素単独採点

■要素A 「天体の存在する世界をあの世とみなすならば」…2点

- ・「天体の存在する世界」は「天上」で可。
- ・「あの世」は「死後の世界」といった説明でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B 「太陽と月と地球が一直線に並ぶ彼岸潮の時期」…2点

- ・「彼岸潮の時期」は「彼岸(の時期・日・時)」などでも可。
- ・単に「彼岸」ということだけが記されている場合、また、説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C 「天上からの力が一年で最強になり」…2点

- ・「最強になり」は「非常に大きくなり」などでも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素D 「あの世とこの世がまじりあう」…2点

- ・「まじりあう」は「最も近づく(近くなる)」などでも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素E 文末は「…から…ので」という形式が原則。但し、答案が、設問の求める理由説明の形になっていると判断できるなら許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 天体の運行について、客観的な科学的説明ですませている現代人とは異なり、そこに現世と来世が交流する  
B  
C  
D より大きな世界の意味を見出そうとした昔の人々の意識。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「天体の運行について」…1点

- ・「意識」の対象の提示。なければ0点。

■要素B 「客観的な科学的説明ですませている現代人とは異なり」…3点

- ・ほぼ同内容なら可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「現世と来世が交流するより大きな世界の意味を見出そうとした」…3点

- ・「現世と来世が交流する」とほぼ同内容の説明があれば、「より大きな世界の意味」にあたる説明がなくても可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「昔の人々の（意識）」…1点

- ・「昔の」はほぼ同内容と判断できる説明なら許容してよい。なければ0点。

\* BとDについて、答案全体から現代人と昔の人々との対比が読み取れる答案になっていればよい。

■要素E 文末は「…(という)意識」という形が原則。但し、設問の求める内容にふさわしい答案形式になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。



- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 一つの思考から別の思考へと移る瞬間に介在する 無思考の中間領域を押し広げ、  
B その境地を常態とするこ  
C

D  
とによって、煩雑な情報が氾濫する現実から解放された状態。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「一つの思考から別の思考へと移る瞬間に介在する」…3点

- ・「思考」と「思考」の「間」ということが読み取れれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「無思考の中間領域を押し広げ」…2点

- ・「無思考」はなくても可。
- ・「押し広げ」に対応する説明を欠く、また、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「その境地を常態とする」…1点

- ・ほぼ同内容の説明があれば加点してよい。

- 要素D 「煩雑な情報が氾濫する現実から解放された」…2点

- ・「煩雑な」はなくても可。
- ・「煩雑な情報が反乱する現実」は、「あらゆるとらわれ」等抽象的な表現でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 文末は「…(という)状態」という形が原則。但し、設問の求める内容にふさわしい答案形式になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点 12点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A
B
C
D
E
F
 現世的な目先の欲望の充足に狂奔する 現代人とは異なり、かつての日本人は、天体の動きを見つめつつ現  
 实的思考から解放され、現世とは異質な価値観を設定して自己を浄化するという生の知恵を共有したとい  
 うこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「現世的な目先の欲望の充足に狂奔する」…3点

- ・「現代人の在り方」の説明。
- ・「現世的な目先の欲望の充足」とほぼ同内容の説明があると判断できれば加点してよい。
- ・単に「現物主義」としている場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「現代人とは異なり、かつての日本人は」…2点

- ・「現代（日本）人」と「かつて（過去・昔）の日本人」との対比であることが明確に読み取れば可。

\* 以下、C・D・E・Fは「かつての日本人」の「一つの精神療法」についての説明。一つのまとまりとして吟味していく。

■要素C「天体の動きを見つめつつ」…1点

- ・ほぼ同等の説明があれば可。

■要素D「現実的思考から解放され」…1点

- ・「現実的思考」は「現実」でも可。

■要素E「現世とは異質な価値観を設定して自己を浄化する」…3点

- ・本文の「この世にあるものとは別の価値観を設定し、この世の矛盾や自己を浄化する」に対応する。ほぼ同内容の説明があれば可。
- ・「現世とは異質な価値観を設定し」と同内容の説明を欠く場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「生の知恵を共有した」…2点

- ・傍線部の「習俗化した」の、ここでの意味を説明している。
- ・「習俗化」をそのまま使っている場合。また、単に同意の表現に置き換えているだけの答えは1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合も1点。

■要素G 答案の文末は、原則として「…こと」という形であること。但し、「…ことを言っている」など、

設問の問いに対応していると判断できれば許容してよい。不適切な文末と判断されたなら1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 14 点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 現世的な物欲を満たすことに躍起になり、B 長い人生を費やしてその充足を手に入れたとしても、C 宇宙規模の

悠久の時空の中で考えてみると実に小さな営みに過ぎず、人間という存在の卑小さが悟得されるという意味。D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「現世的な物欲を満たすことに躍起になり」…4点

- ・ここは「現世的（現実的）な利害に囚われて」など、ほぼ同内容の説明を広く許容してよい。
- ・単に「現物主義」という語だけ提示されている、また、説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素B 「長い人生を費やしてその充足を手に入れたとしても」…3点

- ・「（長い）人生を費やして」に1点、「（その）充足を手に入れたとしても」に2点が目安。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「宇宙規模の悠久の時空の中で考えてみると実に小さな営みに過ぎず」…4点

- ・悠久な時空である宇宙と有限で微少な人間の生の営みとの対比が明確に読み取れれば可。
- ・悠久な時空としての宇宙についての説明を欠く、また説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素D 「人間という存在の卑小さが悟得される」…3点

- ・「人間の卑小さの悟得」ということが何と読み取れれば加点してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末は「…（という）意味（こと）」という形が原則。但し、設問の求める内容にふさわしい答

案形式になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

三 古文 50点

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 傍線部(1)(3)(5)を、適宜ことばを補いつつ、現代語訳せよ。

(1)「起きてゐの時」と申し給へど、(10点)

【模範解答】

権大納言は摂政(近衛兼経)殿に、「まだ皆起きて居ります亥の時でございます」と申し上げなさるけれど、

A	主体・客体の判定	3点
B	起きてゐの時の解釈	4点
C	申し給へどの解釈	3点

◆各加要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 主体・客体の判定

3点

A-1 主体「権大納言」の記述

2点

「権大納言(殿・様)」「洞院実世(殿・様)」「実世(殿・様)」

\*「大納言(殿・様)」だけでは他にも大納言が登場するので不可。

A-2 客体「摂政殿」の記述

1点

「摂政(殿・様)」「近衛兼経(殿・様)」「兼経(殿・様)」「畠谷(殿・様)」

B 起きてゐの時の解釈

4点

B-1 「(まだ皆)起きて居ります時でございます」の訳

2点

「(まだ皆)起きて居ります時でございます(でございます)」 「(まだ皆)起きている時です(でしょ

う)」「(まだ皆)起きている時だ(ろう)」

B-2 「ゐ」の掛詞の解釈

2点

「亥の時(刻ぐらい・ほど)でございます(でございます)」「亥の時(刻ぐらい・ほど)です(でしょ

う)」「亥の時(刻ぐらい・ほど)だ(だろう)」

C 申し給へどの解釈

3点

C-1 謙讓語「申し」の訳

1点

「申し上げ」「お答え申し上げ」「お答えし

C-2 尊敬語「給へ」の訳

1点

「なさる」「お…になる」「…いらつしやる

C-3 已然形+「ど」の訳

1点

「…(です)けれど」「…(です)が」「…(です)のに」

\* 完了・過去を表す「た」があっても不問とする。

\* 丁寧語があっても不問とする。

(3) 霧立ちわたり雁も鳴くなり (10点)

【模範解答】

霧が一面に立ちわたっていて（その姿は見えませんが）、雁も鳴きながら空を渡っているようです。

〈注〉和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

A	霧立ちわたりの解釈	5点
B	雁も鳴くなどの解釈	5点

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 霧立ちわたりの解釈

5点

A-1 補助動詞「わたり」の訳

5点

「霧が一面に立ちわたっていて（その姿は見えませんが）」「霧が空一杯に広がって（その姿は見えませんが）」  
「霧が一面に立ち込めていて（その姿は見えませんが）」「霧がずっと遠くまでかかっている（その姿は見えませんが）」

B 雁も鳴くなどの解釈

5点

B-1 伝聞・推定の助動詞「なり」の訳

5点

「雁も鳴きながら空を渡っているようです（ようだ）」「雁の鳴き声も聞こえます（聞こえる）」「雁も鳴いているようです（ようだ）」「雁も鳴きながら空を渡っているらしい」「雁も鳴いているらしい」

\* 伝聞・推定の助動詞「なり」の訳に「だろう」は不可。

(5) 御名残申さばや (10点)

【模範解答】

私は、別れを惜しむ気持ちを撰政(近衛兼経)殿に申し上げたいのですよ。

A	主体・客体の判定	3点
B	御名残の解釈	3点
C	申さばやの解釈	4点

◆各加要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 主体・客体の判定 3点

A-1 主体の判定 2点

「私は」等の一人称

A-2 客体の判定 1点

「撰政(殿・様)」「近衛兼経(殿・様)」「兼経(殿・様)」「畠谷(殿・様)」

B 御名残の解釈 3点

「別れを惜しむ気持ちを」「惜別の情を」「月見の宴の余韻(余情)を」

\* 「九月十三夜の名残りの月(あるいは残月)と掛けた表現」と解釈したものも正解とする。

C 申さばやの解釈

C-1 動詞「申す」の訳 2点 4点

「申し上げ」「お答え申し上げ」「お話し」「お答えし」「お話し」

C-2 終助詞「ばや」の訳 2点

「…たい(のです)」「…たいなあ」「…できたらなあ」「…しよう(と思うのです)」

\* 丁寧語があってもなくてもよい。

問二 傍線部(2)の和歌について、修辞法を明らかにしつつ現代語訳せよ。(10点)

ただ今は起きてゐぞとは言ふめれど衣片敷き誰もねななん

【模範解答】

権大納言殿は、「今はまだ誰も起きて居ります亥の刻だ」とおっしゃるようですが、実はもう子の刻ですので、独り寝の寝具の用意をして、どなた様も、もうお休みになってしまってくださいね。

〔注〕和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

E	D	C	B	A
誰もねななんの解釈	衣片敷きの解釈	言ふめれどの解釈	起きてゐぞの解釈	主体の判定
4点	1点	2点	2点	1点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・D・Eに関して部分採点】

A 主体の判定

1点

「権大納言(殿・様)」「洞院実世(殿・様)」「実世(殿・様)」

\* 問一とかがるので、配点は半分とした。

B 起きてゐの時の解釈

2点

B-1 「(まだ皆)起きて居ります時でございませう」の訳

1点

「(まだ皆)起きて居ります時でございませう」「(まだ皆)起きて居ります時です(でしょ

う)」「(まだ皆)起きて居る時だ(ろう)」「

B-2 「ゐ」の掛詞の解釈

1点

「亥の時(刻ぐらい・ほど)でございませう」「亥の時(刻ぐらい・ほど)です(でしょ

う)」「亥の時(刻ぐらい・ほど)だ(だろう)」「

\* 問一とかがるので、配点は半分とした。

C 言ふめれどの解釈

2点

C-1 助動詞「めれ」の解釈

1点

「…ようだ」「…ように見た」

\* 推定の助動詞「なり」の訳に「だろう」は不可。

C-2 已然形+「ぞ」の訳

1点

「…(です)けれど」「…(です)が」「…(です)のに」

\* 完了・過去を表す「た」があっても不問とする。

\* 丁寧語があってもなくともよい。

D 衣片敷きの解釈

1点

「独り寝の寝具の用意をして」

\* 注にあるのでこの意味のみ正解とする。

E 誰もねななんの解釈

4点

E-1 助動詞「な」の解釈

1点

「…てしまつて(ちやつて)」のみ正解とする。

E-2 終助詞「なん」の解釈

1点

「…てほしいのです」「…てください」「…てもらいたい」「

E-3 「寝」と「子」の掛詞の解釈

2点

「実はもう子の刻ですの」「本当の時刻は子の刻なので」「今は子の刻だから」「もうすでに子の刻で」

\* 丁寧語があつてもなくともよい。



問三 傍線部(4)『今しばし』など申し出ででくちをし」という作者の感想から、「万里小路大納言」はどのような人物だと推測できるか、その人物像を説明せよ。(10点)

【模範解答】

村上帝や一条院の頃にお側に仕えた公卿や殿上人たちに劣らないほど、今様を趣深く語り、朗々と読経する美しい声を持ち、月を賞美し、風情を解することのできる若き貴公子(公卿・殿上人)。

A	村上帝や一条朝の公卿・殿上人に劣らないほどという記述	2点
B	今様を趣深く語るという記述	1点
C	朗々と読経する美しい声を持つという記述	2点
D	月を賞美し、風情を解することができるという記述	3点
E	若き貴公子(公卿・殿上人)。という記述	2点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・D・Eに関して部分採点】

- A 村上帝や一条朝の公卿・殿上人に劣らないほどという記述 2点  
「村上帝や一条朝の公卿・殿上人に劣らないほど」「村上帝や一条院の頃にお側に仕えた公卿や殿上人たちに劣らないほど」「村上・一条兩朝の時代に劣らないほど」などという表現があれば正解とする。
- \* 「村上帝」「一条院」の表記は「村上天皇」「一条天皇」等であるとわかるものであればよい。

B 今様を趣深く語るという記述 1点

「今様を趣深く語る」「今様を美しく語る」「今様を上手に語る」などという表現があれば正解とする。

C 朗々と読経する美しい声を持つという記述 2点

「朗々と読経する美しい声を持つ」「読経の声もする美しい」などという表現があれば正解とする。

D 月を賞美し、風情を解することができるという記述 3点

D-1 「月を賞美し」「月を愛する」「月の宴を催す」などという表現があれば 1点

D-2 「風情を解することができる」「風情がある」などという表現があれば 2点

E 若き貴公子(公卿・殿上人)。という記述 2点

E-1 「若い」などという表現があれば 1点

E-2 「貴公子。」「名家の子弟。」「公卿(上達部・月卿・卿相・藤路)・殿上人(雲上人・雲客)。」「などという表現があれば 1点。

\* 句点がないものは減点1点。

以上